

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会 会議概要

委員会名 第3回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会
日 時 平成23年2月2日(水) 10:00~12:00
場 所 市民活動センター 南会議室
出席者 腰原委員、川上委員、勝野委員、北澤委員、塚田委員、衛藤委員、土屋委員、河村委員、 辻谷委員、宇留賀委員、佐藤委員、臺委員 市側出席者 高橋観光課長、赤羽観光施設係長、丸山(真)主査、丸山(武)主査 公開・非公開の別 公開 ・非公開 傍聴人 2名 記者 1名
協議事項等
1.会議概要 (1) 開会 (2) あいさつ (3) 協議事項 ①前回意見の確認 ②天然温泉を利用した日帰り入浴施設について ③周辺施設と受入れ体制の充実について ④その他 (4) その他 (5) 閉会
2.会議要旨 ◇しゃくなげ荘は穂高温泉郷の原点である。具体的に方向性を定めたい。今日は『天然温泉を利用した日帰り入浴施設』、『周辺整備受入れ体制の充実』について意見を出してほしい。答申ではなく提言なのでいろいろな意見があっている。(委員長) ◇いろいろな本を見たが、どの温泉もある程度同じスタイルである。外国の温泉は健康重視で、温泉プールに水着で入ったり、ジャグジーがあったり、生活のゆとりを求めている。リラクゼーションを楽しんでいる。しゃくなげ荘に希望することは、温泉重視、岩盤浴や家族風呂などの大小の風呂があり、楽しむ時間の情報発信地になることで、空間スペース・景観も重要。個性を發揮して訪れていただいて素敵なイメージを与えられる場所になればいい。ハード面も大事だがソフト面が重要である。(委員) ◇大きな浴場だけでなく様々な風呂があればいい。足湯・露天風呂、家族風呂はたくさん作るべきである。サウナ風呂もあったほうがいい。鳥取県の皆生温泉には家族風呂が10もある施設がある。障害者などにも配慮が必要。全部温泉でなくてもよい。大きな風呂だけでなく、小さな風呂も複数あったほうがいい。清掃もしやすくなる。歩行浴は循環ろ過で、真水をわかしたのもでもよいと思う。ヨーロッパは健康重視で、医療的利用が多い。日本は快樂型なので、心が癒される健康志向の施設がいいと思う。(委員) ◇観光視点では交通の便が良い所に立ち寄り利用する。しゃくなげ荘は自転車・ウォーキングなどのスタートでありゴールの中心地、目的地となる施設にならなければいけないと思う。水着を着て混浴できる施設も交流の場としてあったほうがいいと思う。(委員)

- ◇温泉の活用が重要で、地域の活性化のためには、飲食・売店・テナントの活用などで集客できる施設を考えるべきである。宿泊施設は難しいと思うが、日帰り施設でも長時間滞在できるものを作っていくべきである。風呂の形態はいくつあってもよい。(委員)
- ◇現在生活の中で入浴利用者が多い。気楽に住民が行ける施設を確保してほしい。良い湯だとは誰もが認める。宿泊業者にお聞きしたい。「観光客がたくさん来る施設を作らなければいけないと思うが、今まで民間の宿泊施設のお風呂を目当てに来ていたお客さんが来なくなってしまうということはないか。」、穂高温泉郷全体で相乗効果が生まれるようにしなければと思う。(委員)
- ◇旅館組合として日帰り温泉施設は建設してほしい。ホテル・旅館が企業努力で負けないくらいのサービス・もてなしをし、互いに育っていけば懸念はない。ランドマーク的存在として穂高温泉郷の中心として活性化すればいい。組合も協力していく。内容は家族風呂や貸切風呂、乳がんの人や高齢者も配慮し、幅広い人たちが利用できるものを工夫すべきである。(委員)
- ◇この検討委員会で『天然温泉を利用した日帰り入浴施設』で決定したのか。規模は別にして個人的にはしゃくなげ荘は宿泊を伴う施設として検討してほしい。当初から民間活力を生かす観点もある。市民の福利厚生か観光客を重点に置くべきなのか。市民に重点を置くなら税金の投入も必要。観光に置く場合は民間活力が必要である。福利厚生・リハビリ施設といった視点と併せて健全者にも利用していただく施設を考えていかなければいけないと思う。日帰り施設で決まったのであれば今の議論で仕方ないが、宿泊施設を残してほしい希望があり確認の意味で聞かせていただいた。(委員)
- ◇あり方検討委員会の答申を受けて当検討委員会では日帰り入浴施設を中心に考えることだったと思う。宿泊施設にこだわると議論がなかなかまとまらないので、日帰り入浴施設を中心に検討していただきたい。(委員長)
- ◇コンセプトがまず必要である。リハビリなどにこだわらず、トレーニング施設の併用も考えながら、リフレッシュ・健康的なイメージを考えていけばいいと思う。(委員)
- ◇現在しゃくなげ荘は癒しを求めて利用されている。大きいものでなくてもいいが日本のどこにもないもので、住民も観光客も利用する施設ができればいい。病院併設も考えていい。宿泊は民間施設の利用を考えてもらえばいいのではないか。2～3泊の長期滞在してもらえる仕組みも考えられればいい。(委員)
- ◇あり方検討委員会の答申では日帰り施設だが、穂高地域審議会では宿泊についても検討されている。最終的な結論が決まっているように感じる。宿泊施設も含めて考えてほしい。松本大学など民間の資金を投入した中で宿泊施設を検討できればと思う。最終的に日帰り施設に決定すれば、内容を十分に検討しなければいけないと思う。(委員)
- ◇第2回委員会で概ね日帰り入浴施設の方向づけがされたと思う。宿泊については穂高温泉郷に約40件宿泊施設があるので、この点も考慮しなければいけないと思う。(事務局)
- ◇前回承認をいただいているので、日帰り入浴施設の方向で検討してほしい。(委員長)
- ◇日帰り入浴施設に決まっていな思っている。宿泊は民間に任せるだけでいいのか。宿泊施設も考えるべき余地はある。事務局の話はあり方検討委員会と同じ話である。委員長は承認を得たと言われるが、そうは思っていない。民間資金をどのように活用するかも考えなければいけない。(委員)
- ◇『天然温泉を利用した日帰り入浴施設』ということで検討していただいた。ただし宿泊施設の話をもっと議論しないというわけではないと思う。(委員長)

◇どういう形で承認を得たのか。(委員)

◇委員会が与えられたキャパシティは、もし天然温泉を利用した日帰り入浴施設を作るならで議論が進んでいる感じがする。宿泊施設については前回発言したが、滞在型の観光を目指した施設を作るならば、食・宿泊・その外エンターテイメントが必要。現在しゃくなげ荘を使用している10～15%の人の扱い、彼らのニーズはどこにあったのか。それをカットすることでその人たちがどこへ行くか疑問を呈した。天然温泉施設を作ればそういう人たちが確実に切り捨てられると思う。もし天然温泉を利用した日帰り入浴施設を作ることを前提で考えると、日本中どこを探してもない、安曇野に行かなければ絶対ないものがある。付加価値のある温泉がいい。福利厚生はバリアフリーという意味でなく、人が人らしく生きるためにどうあるべきかと思う。住民が、人が人として人らしく生活できるような一つのアメニティー。役割を持たした地域主体のもの。この2つくらいの考え方ができると思う。宿泊施設をなくしていいのか。それに対するなくなることについての代替りのものをどう考えるか。次の議論になると思う。穂高温泉郷周辺にはバブル時に建設された厚生福祉施設がかなりあるが、ほとんど使われていない。売りや貸しに出されている。それらと上手に連携をとっていけないか。宿泊の受入れができないか。多角的に議論ができるのではないか。あり方検討委員会の答申が当検討委員会の議論を拘束するのか。どこかで考えないとこの検討委員会の議論が制約されてしまう。多数決では結論は出ないと思う(委員)

◇もし日帰り施設にするとしたらどうするかを前提で検討して、どうしても宿泊施設がないと困ると地域の住民が選択するならば、次のステップで議論したほうがいいと思う。もし日帰り入浴施設として整備するならば、観光を目当てにするべきではない。市民がそこで何をしたいかが大事。イベントを企画する時に集まって会議する場所がほしいとか、ついでに夜遅く立ち寄って入れる風呂とか、若い人が考えた企画の発着点に、そういう場所にするためには単に入浴施設としてだけでなく、ちょっとしたホールが必要だとか、そういう話でいかなければいけないと思う。家族風呂などの具体的な内容についての話はあとでいいと思う。敷地を有効に使って、天然温泉なので当然入浴施設は必要だと思うが、穂高地域や周辺の宿泊業の皆さんがそこでイベントをやりたいとか、何を作るのかでなく何をしたいのかを考えたほうがいい。サイクリングの発着点は面白いと思うが、レンタサイクルの新たな仕組みも考えなければいけない。駅からタクシーでそこまでどう行くのかアクセスなど課題もある。春にハイキングのイベントをやるとか、地元の人が企画するけど観光客も参加できるような広場、施設としては入浴もできるといった形。スペースをどう使うかの中で家族風呂なども検討すればいい。入浴施設ですべてを実現するのは難しい。市民が何をしたいか。どうやって遊びたいか。楽しい企画をしたいかが大切(委員)

◇滞在型を考えれば宿泊施設も検討したいが、天然温泉を利用した日帰り入浴施設について議論を進めたい。併せて周辺整備受入れ体制の充実についても考えてもらいたい。(委員長)

◇日帰り入浴施設を中心に議論を深めた中でどうしても宿泊が必要ということであれば付け加えていく方向にしていけばいいと思う。(事務局)

◇前に戻ってしまうが施設をどうするかについては方向が見えない気がする。例えば安曇野市民としてどういうものがほしいのか。施設について委員である程度まとめてから次の受入れ体制にいかないとすべて言いっぱなしで終わる気がする。進行については日帰り入浴施設にするならどういうものにしていくか。例えば入浴施設だけでいいのか。観光的なものを含めるかで方向が決まってくると思う。(委員)

◇あくまで提言であり、答申でない。今日は天然温泉を利用した日帰り入浴施設に併せて周辺整備

受入れ体制の充実について皆さんの意見をお聞きしている。いろいろな意見があつていいと思う。それらをまとめて次回以降に集約して次のステージに進めていきたい。(委員長)

◇穂高の地域審議会の提言では、しゃくなげ荘の改築と同時に周辺整備を訴えてきた。しゃくなげ荘と、穂高温泉郷・山麓の地域をどうするか考えなければいけない。入浴施設があるだけでなく、周辺で滞在型の観光、日帰り入浴施設にした場合でも長時間滞在できるようにしないとイケない。ビフ穂高・アートヒルズ・満願寺・小岩嶽城址などが集まり時間を費やせる場所もある。それらとしっかり結び付けていくことが重要である。ウォーキング・サイクリングコースを設定して、人に足を向かわせることが大切。国営アルプスあづみの公園が南北にあり、この地域は中間で山麓線が重要な役割を果たしている。しかし山麓線は交通量が増加して危険が多い。県道になったので安曇野市の対応は制限があるが、安全措置については要望を出していかなければいけないと思う。山麓線沿いには看板がたくさん設置されているが、統一がとれていなくて見た目が良くない。美化についても考えていかなければいけない。天蚕センターが古くなっているが、しゃくなげ荘周辺に移転すれば、観光客が立ち寄ると思う。この地域をどうするのか考えてほしい。(委員)

◇各団体から山麓線については歩道設置などの要望もあり、市から県に報告している。豊里地区では景観形成住民協定に基づいて看板が設置されている。看板がなくてはいけなくて多すぎると煩雑になるので、個々でなく集合看板の設置などを考えていく必要がある。市でも看板の整備を考えている。(事務局)

◇もし、天然温泉を利用した日帰り入浴施設を運営するとすれば、対象の基本は市民だと思う。内容をつめこむことに関しては、世界中至る所に例があるので、選んでいくことになる。委員の希望を建設会社へメッセージとして伝えてほしい。市民にあったスケールで投入する税金がどこから出るのか誰が負担するのかを考えないと、バブルじゃないが、いいものばかり考えてしまいきりがなくなる。基本的な機能だけがあればいいと思う。しゃくなげ荘を日々利用している人で今の機能で文句を言う人は聞いたことがないので、基本的なもので十分だと思う。それを使って何をするか。そこへ行ったら何かある。わくわく感をどう日帰り入浴施設として提案できるのか。宿泊施設を作ったから、日帰り入浴施設がなくなるわけではない。併設の施設の考えだと思うので、泊まる人もいると思う。道路沿いの景観は、松本市に住んで8年になるが最大の問題は看板です。何で素敵な場所に看板が設置されているのか。看板のないまちづくりを松本市に提案したが、看板の代わりにするものをみんなで考えよう。電柱・電線をなくすとか。車を運転していて怖いのが自転車である。同じ道で車と自転車が走らせるのは安曇野らしくない。是非サイクリングロードを作って、温泉施設に結び付けてほしい。地元より県外や外国から来る人が増えると思う。その人たちにホスピタリティー、ケアの問題を考え広げていくと、周辺整備にかなり手間暇がかかる危険性がある。身の丈にあったことをやりましょうという発想です。あとになって作ってはみたけれどにならないようにスケールを自分の目線に合わせて話を進めたほうがいいと思う。(委員)

◇市民活動が見える。自分たちの生活の楽しさを支えてくれる拠点について考えていけばいい。入浴施設もあれこれ作らなくていい。テレビの温泉巡りの番組がいろいろあるが、どれも露天・部屋・家族・足湯・歩行湯など次々に増えていく。シンプルに大浴場があつて地元のお母さんたちがいる子どもたちがはしゃいでいる所に観光客が来るようになれば、なつかしく都会を離れて楽しいという気にさせられる。観光客向けに何かしようということではなく、まず自分たちが元気に暮らせるような仕組みが必要。ものを作るだけでなく普段の生活の中で自分たちの食べてい

る料理を互いに勉強したり、地元の野菜を使ったり、活動する中で結果的に外の人がそれが面白くて集まる仕組みにすれば、大掛かりなものを作らなくていい。人やお金が集まるようになってから次に考えていけばいい。バリアフリーという観点で言えば、貸切風呂が1つか2つあったほうがいい。湯量の問題もあるが、すべての入浴施設が天然温泉であったほうがいい。あれこれ作らなくてシンプルが大事。周辺の旅館ほかいろいろなものがあるのに、繋ぐ仕組みができていない。ウォーキングやサイクリングルートが提案されていないのが一番弱い。来た人に勝手に回ってもらっているという感じもある。地域の人には分かっているが車を持たない人たちにどう対応するかが観光としては重要。ルートを繋ぐことが大切。昨年信州DCに合わせてJR東日本の駅からハイキングで、長野大学の学生が上田城周辺を回るコースを企画し、首都圏を中心に約220名参加した。テーマを繋いでストーリーを紹介し、そのための地図も作った。安曇野も素材があるので、テーマに沿ってルートを提案する。それによって観光客が歩きやすくなる。観光に繋がっていく。施設が良いから人が来るのではない。観光を何とかしたい場合は、ものでなくて話で誘う形に変わってきている。地域の農産物を生かした料理のコンテストをやっていくとか、この地域の活性化は必要。いろいろな楽しい企画をしてわいわい打ち合わせをする場所として、風呂に入りながら待ち合わせができる場所という形でしゃくなげ荘を位置づけしてスタートしてもよい。(委員)

◇市民が中心であるが、安曇野にとって観光が重要であることは皆さんの共通した意見だと思う。今日の委員会の意見を事務局に整理していただき、今後の委員会で議論をつめていきたい。(委員長)

◇観光よりは市民が大事であることは分かるが、地域の振興を考えた場合に安曇野にとって観光は経済的に重要。観光をぬきに考えてはいけない。基本的に市民が出発点だが、外から来てもらいここは良かったと思われなければいけない。その点で受入れ体制を考えた時にこの地域の宿泊関係の皆さんが一体となっているのか。力を注いで集客することを考えているのか疑問である。個々では努力されていると思うが、地域全体で盛り上げていく必要がある。おもてなし・ホスピタリティーの問題がクローズアップされると思う。【おひさま】を契機としてそば祭りを一体となって開催するようだが、もっとたくさんあってもいい。宿泊関係の皆さんが一体となって力を発揮してほしい。(委員)

◇遅いと言われるが、商工会中心に支援をいただいて、旅館・ペンション組合で活発とは言えないが、やる気のあるところが集って、1年間穂高活性化塾で勉強してきた。具体的な結果は出ていないが、【おひさま】を観て来た人たちに安曇野の良さを知って帰ってもらえるような企画を考えている。おもてなしについてもレベルアップを図りたい。どんなイベントができるか。それぞれ良いものがたくさんあるが、横の繋がりがなくて一人歩きしているので、まとめて面で動ける体制を考えたい。目的から観光を除くことは考えられない。(委員)

◇周辺整備の受入れ体制を考えれば観光が大事である。宿泊施設が積極的に売り出していく姿勢を見せなければいけない。受け身の体制だといつまでもお客様に対しておもてなしができない。地域振興という意味では地域住民と一緒にやっていくことが観光としては大切である。個人だけではなかなか難しい。積極的に物事を考えないといけない受け身では進んでいかない。安曇野らしさを出した施設ができればと思う。(委員長)

◇観光を無視することはできない。市民を中心に考えるのは、観光は何ぞやというところからきている。安曇野は観光的に外の人たちのイメージができてきている場所である。その素晴らしい場所に

磨きをかけるのはもちろんだが、住んでいる人たちが幸せなのかを外の人たちの目線から見直してみること。市民を中心に考えることで観光が伸びていくと思う。(委員)

◇日帰り入浴施設に併せて宿泊客の受入れ体制についてはどうか。(委員長)

◇約40件の宿泊の受入れ施設が本当に自分たちに宿泊をまかせろと思っているのか。しゃくなげ荘に宿泊がなくなった段階で自動的に客が流れてくると考えているならば、努力不足だと思う。宿泊施設の方が地域も巻き込んで一体となって頑張ってもらいたい。そば店が集まって会議があったが、秋に安曇野産のそば粉だけでできたそばを提供するそば祭りをやろうということであった。大義名分はいいが約60店のそば屋をまかなうだけのそば粉があるか疑問ではあったが、なんとか供給できるようであるが、何店かは自分の店の味にこだわりがあるので、すべて安曇野産で作ることに難色を示している。安曇野のそば屋では北海道産を多く使っているようである。安曇野産はあまり評判はよくないようである。【おひさま】に併せてのイベントでいいと思うが疑問もある。周辺整備の現状で、しゃくなげ荘をどうするかではなく、周辺全体を見渡し、今すぐ使える市の土地も含めて将来像を早急に検討すべきである。ビフ穂高を道の駅にという意見もあるが現状では難しい。山麓線はスピードを出す車が多く、観光客・住民もそぞろ歩きができない。観光客がのんびり歩ける施設も整備してほしい。豊里は景観形成住民協定で目立つ看板は比較的少ないと思う。(委員)

◇豊里で看板について地権者の利害関係もあり2~3件課題もある。いずれ撤去していただくようお願いしている。地元でもイベントを企画して始めた菜の花まつりも3回を迎え、ビフ穂高の前の1町歩の田に作付けをした。今までは区民対象でやっているが、観光協会、宿泊業者と今後一緒にできるか検討したい。公民館長が富士尾山のウォーキングコースを整備して、満願寺からしゃくなげ荘へ下りられるようになった。いろいろな企画を個々でやるだけでなく横の繋がりを大切にすればいろいろな整備ができると思う。(委員)

◇お客に来ていただくためにはどうしたらいいにか。宿泊業の皆さんがこうしたいから、こうするからということが必要で、観光客が立ち寄っただけで帰ってしまう、滞在しないでリピーターにならないのではまずいと思う。松本では客が安曇野を観光して宿泊は松本でという仕組みが旅館でできている。安曇野の宿泊においても見習わなければいけない点がある。(委員長)

◇この委員会は宿泊業が良い悪いを議論する場ではない。宿泊業も改善しようと頑張っている。前向きに過去のことではなくて、今後どうあるべきかを話し合っていくべきであると思う。(委員)

◇菜の花まつり・ハイキングコースなどの情報を繋げる力がとても大切で、いろいろな住民がこんなことをやっているのかを繋げて、一つのストーリーとして相乗効果を狙うのもいい。こんなことをやるということを気兼ねなく語り合って、一緒に話し合えるそんな機能がしゃくなげ荘にあればいいと思う。ハイキングコースができればしゃくなげ荘からのルートを紹介したり、菜の花を紹介してもいい。安曇野は水、そしてアートの文化的イメージが高い。それらを連携して回るコースを探したりしてもいい。宿泊業の話が出ているが、宿泊だけで観光が成り立っているわけではない。住民が元気で楽しくやっているかが前提で、宿泊業が成り立っている。宿泊業の頑張りが足りないという視点には賛成はできない。周辺との繋がり方が足りないのかもしれない。素材はたくさんある。縦横無尽に繋がりを持って安曇野がイメージアップすることを願いたい。安曇野は知名度もあるので、長野県のレベルを上げるくらいのもりで頑張ってもらいたい。(委員)

◇豊かな素材・人・環境を大事にしている姿に自信を持つべきだと思う。自信に基づいて観光を考えていかなければ客がかわいそうである。(委員)

◇活発な審議をいただきました。いろいろな意見を踏まえて提言ができればと思う。(委員長)

次回 平成 23 年 3 月上旬の予定